

精神科治療学 Vol.32 No.6  
 2017年6月号 特集 周産期メンタルケア 多職種連携の作り方  
 [雑誌]

精神科治療学 第32巻6号(通巻375号)平成29年6月19日発行(毎月1日19日発行) ISSN 0912-1892 Seishinko chiryogaku

# 精神科治療学

Japanese Journal of Psychiatric Treatment Vol.32 No.6 Jun. 2017

## ■特集 周産期メンタルケア—多職種連携の作り方—

特集にあたって……………渡邊博幸  
 周産期メンタルケアの現状と展望……………岡野樹治  
 精神保健と母子保健の連携はなぜ困難なのか？—3つの連携障壁とその解決—  
 渡邊博幸、榎原雅代  
 周産期メンタルケア外来（精神科設置）……………菊地紗歌、小林奈津子、本多奈美 他  
 周産期メンタルヘルス外来の立ち上げ方……………安田貴明、大貫公子、志賀眞貴 他  
 総合病院での周産期メンタルヘルスケア連携—産科医の立場から……………西部秀和  
 総合病院での周産期メンタルケア連携—精神科医の立場から……………武藤仁志、竹内 崇  
 産科入院事例への多職種ケア……………清野仁美、西海正尊、松永寿人  
 多職種協働における助産師の役割……………小澤千恵  
 精神疾患合併妊婦・授乳婦における薬物療法に対する薬師師の取り組み  
 岡口寿子、南宮まい、影山名織 他  
 周産期メンタルヘルスにおけるリエゾン精神看護専門看護師の役割……………宮田 郁  
 マタニティホスピタルでの精神科診療……………高橋由美子、横田美巳、松村幸英 他  
 産科病院における心理カウンセリング……………菅首 潤、野月 愛、小崎和子 他  
 地域の周産期メンタルヘルスケアのために精神科診療所では何ができるか？……………武田直己  
 早稲田精神科医療機関における「周産期メンタルヘルス外来」のリエゾン活動  
 岡野樹治、若佐貴史、森川裕行  
 周産期メンタルケアにおける自助グループの役割と今後の課題  
 —自助グループリーダーおよび心理職の立場から……………宮崎弘美  
 妊娠前から切れ目ない連携支援体制づくり……………立花良之、小泉典章  
 大阪府の妊産婦メンタルケア体制強化事業……………岡本陽子、和田聡子、光田信明  
 社会的ハイリスク妊婦に対する保健師の取り組み  
 —妊娠・出産・育児の切れ目ない相談・支援のしくみ「名張版もりぼた」より……………上田紀子  
 児童虐待防止に向けた地方自治体と医療機関との円滑な連携促進の取り組み  
 —千葉県および松戸市における児童福祉と医療の連携の実際……………三平 元  
 産院・新生児科事例から見た周産期メンタルヘルスの現状と課題……………岡口寿子  
 特定妊婦に対する情報提供と法的課題……………石川博康  
 精神科医師の周産期メンタルヘルスリテラシーの向上のために……………鈴木利人

■研究報告  
 陣うつ症状を伴う睡眠相後遺症群に対する aripiprazole の有効性の早期試験による検討  
 ……大森祐貴、神林 崇、高本 学 他

■臨床経験  
 不整脈に対してカテーテル治療あるいはペースメーカー設置を行った老年期うつ病患者に  
 修正型電気けいれん療法が奏効した2症例……………近江 潤、金井謙治、陣 謙祐 他

星 和 書 店

<http://www.seiwa-pb.co.jp>

発売日: 2017年6月22日

出版: 星和書店

ページ: 138

PDF

<http://yep.pm/y9BD1tCi5/19U6JxB1R.pdf.rar>